

Title	経営理念の一考察-浸透度を上げるために-
Sub Title	
Author	野林晴彦(Nobayashi, Haruhiko) 浅川和宏
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1998
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1998年度経営学 第1462号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001998-1462">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001998-1462</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

所属ゼミ	浅川 研究会	学籍番号	89728765	氏名	野林 晴彦
(論文題名)					
<b>経営理念の一考察</b> <b>—浸透度を上げるために—</b>					
(内容の要旨)					
<p>日本企業は現在、企業不祥事の続発と企業業績の悪化・倒産の増加という、2つの大きな問題に直面している。これらの問題に対し、「企業内統合」と「社会的適合」という2つの機能を持つ経営理念の有効性が再認識されている。この経営理念は、企業内に浸透しなくては十分機能しないと言われている。それでは企業が、経営理念を企業内に浸透させるためにはどうしたら良いのだろうか。企業組織内への経営理念の浸透の度合いを「浸透度」とすれば、経営理念の浸透度を上げるために、企業はどうしたらよいのだろうか。</p> <p>本研究では、この「経営理念の浸透度を上げる条件」を探ることを目的とした。具体的には、経営理念の「浸透策」と「内容」に注目し、文献研究から概念モデルを構築した。モデルによって「浸透策のレベルが浸透度を左右する」と「環境に適合(FIT)した内容を持つ経営理念は、浸透度が高い」という2つの仮説を立て検証を行った。なお、本研究では「浸透度」を、従業員の心理的側面に焦点をあてるのではなく、「企業が経営理念を具体的施策・制度に体現化した度合い」(理念体現度)として捉えることを試みた。</p> <p>実証研究にあたっては、質問票調査を実施した。あらゆる業界の企業220社に質問票を送付し、その中から63社から分析対象となる回答を得た。(有効回答率28.6%)</p> <p>質問票調査を因子分析・重回帰分析することによって次のような結果・考察が得られた。まず第1に、「浸透度はひとくくりに表すことができないもの」であることが明らかになった。(浸透度の多義性)すなわち、浸透度を上げるためには、経営理念を「マネジメント」「作品」「人事施策」の3つにいかんか体現できるかという視点が必要になる。</p> <p>第2に、具体的な経営理念浸透策は、「明示」「ビジュアルで象徴」「人・ソフト装置で象徴」「理念教育研修」「インナープロモーション」の5つに分類できることが判明した。</p> <p>第3に「浸透度の多義性に合わせた経営理念浸透策が必要になる」ことが明らかとなった。(理念浸透策の多様性) 具体的に言えば、「マネジメント」「作品」に経営理念を体現するためには、「理念教育研修」「明示」が有効であり、「人事制度」には「ビジュアルでの象徴」「人・ソフト装置での象徴」「インナープロモーション」といった経営理念浸透策が有効である。またこれらは、「経営理念浸透策のレベルが浸透度を左右する」という仮説を検証する結果となった。</p> <p>第4に、「理念内容が環境に適合(FIT)している場合、浸透度が高くなる傾向が認められた。」しかし、有意差が得られなかったため、「環境に適合(FIT)した内容を持つ経営理念は、浸透度が高い」という2つの仮説は検証できなかった。</p> <p>本研究は、「理念体現度」という経営理念の浸透度を提唱するとともに、「理念体現の対象によって有効な浸透策が異なる」ことを明らかにし、比較的少ない「理念浸透および浸透策研究」のひとつを提供した。また実践的には、理念浸透の具体的な5つの浸透策を整理し、企業の理念浸透策企画に有用な示唆を与えることができるのではないだろうか。とくに日本企業では不足していると思われる『人事制度』への経営理念体現の重要性」と「その体現のために有効な浸透策」を示せたことは、実際の理念浸透に有用性が大きいと考えられる。</p>					